



## 団地ウィルス (ダンチウィルス)

古賀利郎 (こがとしろう)

日本大学 生産工学部建築工学科



私が今回取り組んだプロジェクトは埼玉県に位置する草加松原団地の再生計画です。この団地は、戦後の高度経済成長期にスケールメリットによって大量供給されたマスハウジング期の住宅ストックのひとつです。しかし、40年近く経ち、膨大な量の住戸群は現在の住要求に適應できずに空き室の増加、さらには建物の老朽化や住民の高齢化も相まって、地域全体の衰退を招いています。私は、こういった数々の問題を解決しながら、団地の保存・再生を時系列的に行っていく「団地ウィルス」を提案します。団地ウィルスは「2DK」「冬至4時間日照」「3階段4階建て」「1棟24戸」「南面平行型」「全住戸均一」などの古いDNAを解体しながら、団地を新たな住民の賑わう場へと変容させていきます。

**【講評】** 作者はこどもの頃、団地で育った。高度成長期に量産された団地が「老朽化」という理由で取り壊され始めている状況を目の当たりにした作者は「団地の保存・再生」を時系列的に計画した。既存団地棟にヴォリュームの変化、街区動線の設定、耐震補強、居住性向上要素の付加などを施し、それらを新たな住棟で結ぶ。屋上をこども達が走り廻り、ピロティーで人々が集うこの新たな住棟はうねるような、盛り上がるような形態で交差している。それは大蛇のようにも、また全体では蜘蛛の巣のようにも見えるのだが、作者のドローイングとも連携して、現代の詩性を強く感じ取れるものである。今のこども達に新たな原風景を与える秀作である。

【審査員：古里 正】

